

## 第5回 国勢調査の実施に関する有識者懇談会議事概要

- 1 日時 平成18年5月30日(火)13時00分から15時10分
- 2 場所 総務省第2庁舎 特別会議室
- 3 出席者  
構成員：竹内啓座長、阿藤誠委員、飯島英胤委員、城本勝委員、須々木巨平委員、萩原雅之委員、堀部政男委員、和田理都子委員  
オブザーバ：関野昌宏(沼津市市民相談センター所長)  
総務省：衛藤英達統計局長、高橋正樹統計調査部長、田口和也総務課長、飯島信也調査企画課長、亀田意統国勢統計課長
- 4 議題
  - (1) 改善策の提案に係る論点整理について
  - (2) その他
- 5 配付資料  
「国勢調査の実施に関する有識者懇談会」報告書作成のための論点整理  
(参考1) 平成17年国勢調査の実施状況  
(参考2) 国勢調査の実施に関する有識者懇談会における主な意見  
(参考3) 国勢調査の実施に関する有識者懇談会への意見(東京都)
- 6 議事の概要
  - (1) 事務局から、「国勢調査の実施に関する有識者懇談会」報告書作成のための論点整理について、資料に基づき説明が行われ、その後、検討が行われた。  
各委員からの主な意見等は以下のとおり。  
報告書の前文に、国勢調査を取り巻く環境と調査の必要性について整理した要約を付けることが適当。  
国民の信頼を回復するのが大前提であるので、報告書の構成としては、「国民の理解及び協力の確保について」を前に置くべき。国民の大きな疑問に答えた上で、個別の疑問に答えていくという流れがよい。  
調査の意義については、単に人口と世帯の規模及び構造の把握としただけでは不十分。地域にどんな人がどのように住んでいて、どのような

活動をしているかなど属性別に把握する必要性を示すなど、国勢調査は人口・世帯数だけを把握するものではないことを明確にした方がよい。

調査票の回収方法については、資料のとおりでよいと思うが、調査員による対面方式が困難という状況があるのだから、配布方法について、もっと柔軟に考えてもよいのではないか。対面方式を原則にするのではなく、別の方法を並列に示す構成としてはどうか。

世帯への調査票の配布を確実に確認するという観点から、調査員が調査票を配布する必要があることも留意すべき。

地域の実情に合わせて調査方法を変えろということをもっと積極的に打ち出してもよいのではないか。また、調査員から調査票を手渡ししてほしいという人もいるので、そういう人に対応できるように調査員が対面することも選択肢の一つとして加えることが適当。

全体的にオートロックマンションに対する危機感に貫かれている印象を受けるが、それ以外でもトラブルは起こっており、広く調査そのものに対する信頼感が低下しているのが問題。プライバシー意識の高まり、生活様式の多様化など、もう少し今の社会情勢をとらえた書きぶりにするのが適当。

世帯名簿のプレプリントなど、行政情報の活用については、「参考」程度ではなく、もっと強く打ち出してよいのではないか。一方、行政情報はあくまで統計調査の補完のために利用するものという整理をするのであれば、世帯の居住確認をする際に「活用する」といった表現とすることが適当ではないか。

調査方法の見直しにより、市町村の負担が大きくなるので、実施体制に留意する必要がある。調査員の質の向上は指導員にかかっているので、指導員の役割をどう位置づけるかが重要。また、調査員の指導についても、明確な原則を打ち出すことが必要。

現在の調査項目は必要なものと考えるが、より回答しやすい設問とするよう、もっと工夫できるのではないか。また、ロング・フォーム、ショート・フォームの導入については、将来の調査体系のあり方を含め、慎重に検討することが必要。今回の見直しはいかに調査を円滑に行うかということに焦点を絞るべき。

- (2) 本日の検討を踏まえ、ワーキングチームで骨子案を作成し、次回懇談会に提出。なお、次回は平成18年6月26日（月）14時00分から開催予定。